県立阪神昆陽高等学校　平成24年度　学校評価

教育目標
1　設置趣旨及び県が目指すべき4つの人間像を踏まえた、生徒一人一人の「生きる力」の育成
2　併設の阪神昆陽特別支援学校との交流及び共同学習の推進
3　高校生地域貢献事業等を活用した地域に愛される学校づくり
4　教職員の豊かな人間性や専門性、実践的指導力の向上

学校経営方針
1　生徒の興味・関心や、多様な学習ニーズに応じて、主体的に学ぶことができる多部制単位制高等学校として、「確かな学力」「豊かな心」「健や かな体」を育む。
2　阪神昆陽特別支援学校が同一敷地に設置されたメリットを最大限に生かして交流及び共同学習を推進し、ふれあいを通じた豊かな人間性を育むとともに、社会におけるノーマライゼーションの理念を進展する礎となる学校をめざす。また、両校の実践を県内のみならず全国へ発信する。
3　学校評議員制度や高校生地域貢献事業、YU・らいふ・サポート事業などを活用して、伊丹市池尻地区や尼崎市西昆陽地区など、学校周辺の地域と連携した教育活動を推進し、地域に開かれた、地域に愛される学校をめざす。

領域	評価の観点	評価項目		実践目標	平均	成果	課題	改善策	学校関係者評価委員意見
学校運営	開かれた学校づくり	保護者・地域等への情報発信等	1	ホームページや各種通信等により、適宜、保護者・地域への情報提供を行う。	3.2	・ホームページ新しくなった。ホームページ(ノーマライゼーション)運営を継続することで、本校で特色ある教育を実施していることを広く情報提供できている。 ・ホームページにニュースだけでなく、教育ブログなども入る。ノーマライゼーションの記録を載せ、充実している。 ・ホームページ掲載後してより見やすい内容にすることができた。 ・学校行事の様子や連絡などが文字入りの絵文字で、内容に即応の情報提供ができた。 ・ホームページを定期的にリニューアルしてレイアウトを改善して、情報提供のコンテンツが増加した際に対応できるようにした。 ・HPがリニューアルできた。	・本校の教育活動および多くの方に知っていただくための取組が必要である。 ・ホームページの更新のスピードが遅い。 ・更新の頻度が少なくなっている。 ・HPの定期的な更新・更新の時期を決めておいてもよいのではないか。 ・ホームページ、各種通信とも、更新が遅うさに行きなるかも。 ・本校のシンジュ中のようそうをとったら、さらにのおよう情報発信していくか。 ・更新の頻度を増やしていくことになるが結ぶがなかなか難まっていない。 ・ホームページの内容の更なる充実、本校は教育業界では知名度が高いが、まだまだ知られておらず、教育関係者からもどのような学校なのか聞かれることが多い。特にこの相談夜間の学び支援講しているのか等の質問が多くあり、ホームページの充実は、学校の知名度を高めるのに役立つ。 ・ホームページの情報提供はまだまだ少ない。 ・通信等への情報提供はまだまだ少ない。 ・生徒向け、保護者向けの内容も取り入れたこともよいのではないか。 ・中学校向け情報提供も積極的に取組んでいる。 ・ホームページ内容の充実と情報提供の強化。 ・HPが開設され、より見やすくて一般の方々に親しみやすいものとなった。 ・これまでホームページを更新し、多くの人の目に触れる機会を多くする。 ・ホームページの利用を広報付けながら学校活動でも活用できるようにする。 ・ホームページがわかりやすくなっていると思う。学校からの情報発信ができている。 ・本校生徒による学校紹介の連続活動も定期的に行われた。 ・ホームページを保護者等により、速度、保護者や地域への情報提供ができることにより、本校への理解が深まったと思います。 ・情報発信の努力はしている。 ・定期的に更新している。 ・ホームページの内容は、学校の様子や行事予定、各種連絡事項などを頻繁に向けて情報提供することができた。 ・ホームページ、保護者向けの通信は、学校の様子を伝えるのに大変有効であった。 ・生徒向け、保護者向けの内容も取り入れたこともよいのではないか。 ・学校の情報を得る機会が増加した。 ・ホームページの内容は、学校の様子や行事予定、各種連絡事項などを頻繁に向けて情報提供することができた。 ・ホームページ、保護者向けの通信は、学校の様子を伝えるのに大変有効であった。 ・ホームページ、保護者向けの通信は、学校の様子を伝えるのに大変有効であった。 ・ホームページ、保護者向けの通信は、学校の様子を伝えるのに大変有効であった。 ・ホームページの内容が増加した。	・学校案内のホームページにおける同じ状態の校舎の写真を載せるが、ほかとは違うこんな学校ですよというかを必要ですのだが、思いやりがない。 ・ホームページに関しては、各月の行事予定を載せるなど、簡単な内容で、更新回数を増やす。 ・定期的な更新をするために、決まった日時を更新日として設定する。 ・新活動や学校行事等のページを追加する。ホームページ自体の分単位設置。 ・地域への情報発信の方法を模索する。 ・オープンハイスクールの平日実施と保護者会の土日実施。 ・保護者の保護者会を実施する。 ・通知文等をタイ中に頻にするなど、もっと生徒それに向いてって、地域貢献させて ・ ・地域に連絡に結構的に取り組んでおられることも大変評価したい。地域住民が保護況国の応援活動してくれることは、学校運営とも重要なポイントとなるだろう。 ・年度24年4月開設されて以降、学校運営に関する情報が公表されるが、教職員の経験者を視野に入れながら、特定の教職員の負担が大きすぎないように、適切な職務分掌を期待したい。 ・ ・ ・評議員の教職員がを利用、改善の余地があるかもしれない。学校現場の開放は地域教員の負担感につながるものであるが、この点を有効しながら検討していただきたい。 ・評議員のメンバーは、多様なスタンスを揃えられるが、学校行事等への参加状況が薄い。 ・ ・平成24年度は、開設初年度のため、学年単位や保護者会で何度かたのマはないかと推察する。できるだけ教職員が運営されることを期待したい。 ・ ・評議員に対して教員されるの内容を知っていると、教員が関心してまを目れたものと思われた。	・関された学校・父兄については、教員による日頃評価にはいろいろ幅わもの目標が達成されている。 ・地域社会や保護者とのつながりは有益である。 ・ ・ホームページは有効な情報発信手段であるため、定期的な更新に努めていただきたい。 一部されたホームページにノーマライゼーション運営が連載されていることを高く評価したい。学校の存立基盤であり、目標でもあるノーマライゼーションの重義を校内だけでなく、広く社会一般に向けて発信していこうとの試みは評価したいが、ただ、ホームページ自体の分単位設置。 ・各種通信手段を模索して、評議員をはじめとした学校運営に関するスタッフに情報を発信されたい。 ・ ・中高連絡協議会の実施は、生徒の学力入り教育は、極めて重要である。 ・ ・本校の校訓「自学実践」を具現化するための具体的な方策を早急に策定されたい。 ・ ・地域の連絡に結構的に取り組んでおられることも高く評価したい。地域住民が評議況国の応援活動してくれることは、学校運営とも重要なポイントとなるだろう。 ・年度24年4月開設されて以降、学校運営に関する情報が公表されるが、教職員の経験者を視野に入れながら、特定の教職員の負担が大きすぎないように、適切な職務分掌を期待したい。 ・学校の活性化は、教職員の学び合いと、子どもたちが、切磋琢磨し合い、お互いに高め合う、学校の雰囲気が、生徒に意識づけしていく。地域の方々との交流も深める。 ・人員不足、勤務ブンの問題、時間不足などの支援 ・入学説の参加に対応する設備人員が必要
		地域の活動等に対し、学校体育施設を開放する。	5		3.1	・中高連絡会で、学校体育施設の開放について、地域の活性化に寄与する観点から、地域の人々に対して、不登校支援研修会を行う予定である。 ・学校の教育力の開放がハンプルンの作成、地域住民への活用をはかる。 ・地域風いの開放が多いが、情報提供が乏しくているように思う。 ・学校の教育力の開放がハンプルンの作成、地域住民への活用をはかる。 ・地域の人々に対して、不登校支援研修会を行う予定である。 ・学校の教育力の開放がハンプルンの作成、地域住民への活用をはかる。 ・地域の人々に対して、不登校支援研修会を行う予定である。 ・学校の教育力の開放がハンプルンの作成、地域住民への活用をはかる。 ・地域の人々に対して、不登校支援研修会を行う予定である。 ・長期休業の間に安全・安心教室などを開いて、地域の教育に貢献している。 ・校内清掃利用、実施することができた。	・体育館の使用状況は、地域の住民から、教育の充実から、地域の状況と結びにつて地域の美化に貢献できた。地域の状況と結びにつて改善された。 ・学校の教育力の開放がハンプルンの作成、地域住民への活用をはかる。 ・学校の教育力の開放がハンプルンの作成、地域住民への活用をはかる。 ・学校の教育力の開放がハンプルンの作成、地域住民への活用をはかる。 ・学校の教育力の開放がハンプルンの作成、地域住民への活用をはかる。 ・学校の教育力の開放がハンプルンの作成、地域住民への活用をはかる。		
	円滑な学校運営	学校評議員制度等の活用	6	学校評議員会を各学期に実施し、意見聴取等を通じて学校運営の改善に活用する。	3.3	・月1回定例でのサポート委員会を行うことにより、見通しの見通しを通じて、学校の運営の改善に活用する。 ・キャンパスカウンセラーの活用により、生徒の相談で生徒の悩みの解決を図る。 ・カウンセラーの派遣回数を増し、生徒・保護者・職員が相談しやすくしている。 ・カウンセラー、管理、中学校等と情報交換をしながら生徒指導に努めている。 ・月に1回定例でのサポート委員会を行うことにより、見通しの見通しを通じて、学校の運営の改善に活用する。 ・キャンパスカウンセラーの活用により、生徒・保護者・職員が相談しやすくしている。 ・カウンセラー、管理、中学校等と情報交換をしながら生徒指導に努めている。 ・月1回定例でのサポート委員会を行うことにより、見通しの見通しを通じて、学校の運営の改善に活用する。 ・キャンパスカウンセラーの活用により、生徒・保護者・職員が相談しやすくしている。 ・カウンセラー、管理、中学校等と情報交換をしながら生徒指導に努めている。 ・月に